

多様化する中国の古本屋

— 国有企業からネット販売まで —

狩野修二

中国の古本屋は、一九五〇年代、

公私合営という形を経て他業種の私企業とともに国営化が進んだ。

その結果、北京では一一〇あった民間の古本屋が、国営企業である中国書店へとまとめられた（参考文献①）。その後、一九八〇年代になり、私企業による経済活動が認められるようになると、民間の古本屋が再び出現し始めた。

現在、古本屋は主に二種類に分けられる。ひとつは実店舗のある古本屋であり、もうひとつはインターネット上の古本屋である。本稿では、主に筆者が訪問したことのある北京の古本屋およびインターネット上の古本屋サイト、特に最大手である「孔夫子旧书网」を紹介する。中国の古本屋事情の一端をお伝えできればと思う。

●北京の古本屋

「……八〇年代以前、北京の書店は二つしかなかった。一つは新華書店、もう一つは中国書店。新華書店は新しい本を売り、中国書店は古本を売っていた」（参考文献②）。北京の書店について書かれているこの資料のとおり、北京の古本屋といえば長らく中国書店を指していた。中国の書店に関する資料を読むと、八〇年代以前に学生であった知識人たちが中国書店に入り浸り、ここで知的好奇心を満たしていたことが綴られている。現在は歴史的に価値の高い、いわゆる古書と呼ばれる資料や、書画、文学、歴史関連の新聞本（古本でない本）を中心に扱っているが、近年刊行された本の古本も販売されている。しかし、書架上の配列は無規則で、分野別にもならべられていない。必要な本を探す

のには丹念に棚をみていくほかなく苦労する。

典型的な古本屋といった風情があるのは、清華大学の西側にある前流書店である。大通り脇の、気をつけないと見落としてしまいそうな路地のなかにあり、一見ひどく寂れた店構えである。実際店内も古びてはいるが、思ったより奥行きがあり、人文社会科学分野を中心とした学術書が分野ごとに並べられている。この古本屋は、インターネットでも図書を検索・注文することができるのだが、新しく仕入れた古本はまず店頭に一〇日から一五日程度並べたのち、インターネットでも販売するといった店頭優遇策をとっている。筆者の来店時、客は一人もいなかったが、店内中央には、発送用に梱包された図書が積み上げられていたことから、インターネットでの利

用が相当数あることがうかがわれる。

日本ではおそらくあまりみかけないタイプの古本屋に豆瓣書店がある。店は古本屋というよりむしろ小規模な書店といった印象を受ける。実はここで売られている本は出版社の在庫処分品を仕入れたものなのである。これにより新品と同様の本が低価格で販売されている。もちろん在庫処分品を何でも仕入れている訳ではなく、店主が人文系の本を中心に選定をしている。店員によると、誰かが一度使った本をほしがる人はあまりいないため、いわゆる古本は扱っていないとのことであった。またこの店では、一部であるが新刊書も取り扱っている。

北京ではいくつかの場所で古本市が開催されている。市内東部に、ある潘家園旧貨市場の古本市は、一九九〇年代前半に始まり、現在でも行われている数少ない古本市のひとつである。開催は土日のみで、駐車場を思わせるスペースに三畳程度の広さを一区画としてそれぞれ売主が出店している。潘家園旧貨市場は、常設市としては、骨董や装飾品などが取り扱われる場所ということもあり、古本

市でもそれらに関する資料が多く売られている。また、毛沢東関連の資料や地図、連環書と呼ばれる小型の本、民国期の資料などが多く取り扱われていた。本の扱いは売り主によって随分異なり、一冊一冊ビニールに包みきれいに陳列する店から、うずたかく積まれた本を前に「一冊二元！」とたたき売りをする店、店主が狭い売り場スペースを本を踏みつけながら歩く店などさまざまである。

●インターネットの古本屋

中国でインターネット上の古本屋が現れ始めたのは二〇〇〇年頃といわれている。一時は斜陽産業



潘家園古本市の様子（筆者撮影）

といわれた古本市場はインターネットの登場により再び活性化することになる。従来の実店舗の形態は、店側・客側双方の売買が基本的に居住する地域内に限定されてしまい需要と供給のマッチングが難しくなった。しかしインターネットの登場によりこれらの制約がなくなった。これに加え、実店舗を持つことによる賃貸料などのコスト削減や同一図書の価格がインターネット上で比較できるため、その値段が平均化するなど、双方にとって利点が生じた(参考文献③)。

孔夫子旧书网は、インターネット古本屋のなかでは比較的早い二〇〇二年に創業され、現在では最大手の古本屋サイトである。このサイトは単独の古本屋ではなく、複数の古本屋がインターネット上で取引できるようなプラットフォームを提供している、いわゆるオンラインモールである。二〇一六年二月現在、約六万の店舗が出店し、合わせて六九〇〇万冊の本が出品されている。前述の前流書店もここに出演し実店舗とインターネット店舗両方で営業している。筆者は、中国滞在時にこのサイトを利用して、統計局でもすでに販売していないような一九八〇〜九〇

年代の統計資料を収集し、アジア経済研究所図書館が所蔵する統計資料の欠号年を補充した。このように図書館や地方都市にいる研究者にとって、これまでなかなか収集できなかった資料へのアクセスは格段に向上したといえるであろう(参考文献③)。ただし、各店舗によって対応がまちまちである点は注意が必要である。例えば注文をしてもその後連絡がない、あるいは領収書の発行をしてくれないなどである。このため利用しながら優良店舗を見極めていくことも必要である。

また、孔夫子旧书网では、すでに新刊書を取り扱う書店も存在しており、古本屋サイトという枠を超えた総合書店サイトへの変化もみられる。

●おわりに

以上、北京の古本屋とインターネット上の古本屋を簡単に紹介したが、このなかだけでも昔ながらの店舗からネット販売との兼業店、処分される在庫を販売する店など多様な形態の古本屋があることがわかる。また、中国書店や豆瓣書店、孔夫子旧书网の一部店舗のように新刊書を取り扱うなど、古本

屋と新刊書店の垣根も低くなり始めている。特に孔夫子旧书网は、インターネット上で古本取引の約九割を占めているとの話もあり、これに新刊書が加わった場合、孔夫子旧书网でみつかからない本を、別の書店で探すのは難しいといった状況が発生するのではないかと予想もされている(参考文献④)。こうした状況も含め、今後中国の古本屋がどのように変化していくのか非常に興味深いところである。

(かのう しゅうじ/アジア経済研究所 図書館)

《参考文献》

- ① 吳熹、李雪懿著「北京旧书市场的经营与开发」(《北京联合大学学报》十六卷四期、二〇〇二年一二月)。
- ② 严彬主编『北京书店印象』(中央编译出版社、二〇一六年)。
- ③ 沈志富・汪健著「论网络旧书业的发展特点及现实意义」(《国家图书馆学刊》第八二期、二〇一二年四月)。
- ④ 赵玉琦「中国互联网旧书经营模式初谈——以孔夫子旧书网为例」(《中国出版》二〇一二年五月上)。